

(令和4年3月試験研究業務月報)

試験研究課題：開発農地における新規作物の導入

研 究

加工向け春まきレタスの肥料試験を実施

丹後地域では、国営開発農地を中心にキャベツ等のアブラナ科野菜の加工用契約栽培が推進されていますが、連作が進むにつれ、根こぶ病の多発等、連作障害が問題となっています。そこで当所では、アブラナ科以外の品目としてレタス、ニンジン等を取り上げ、連作障害回避作物として現地へ導入できるように検討しています。

加工用レタスとしては、球重が大きくかつ球が締まりすぎない品種が求められます。昨年度に有望な2品種を選定したものの、球が締まりすぎてしまう課題が残りました。そこで今年度は、選定した2品種について、球の締まりすぎを抑えることを目的に、肥料の量を変えて栽培試験を実施することとし、3月8日に2品種を播種^{はしゅ}しました。

今後は、4月上旬に定植し、生育を確認しながら、5月下旬から順次収穫調査を行い、国営開発農地における最適な栽培方法を確立します。



はしゅ
播種作業の様子(3月8日)

農林センター（丹後農業研究所）